

季節展示「埼玉のユリ」

期間 2009年5月12日（火）～9月27日（日）

須田 大樹

埼玉県内には30属70種類ものユリ科植物が自生しますが、そのうちユリの中のユリといえるのはユリ属のわずか数種類です。本展示では、県内でみられる野生のユリ属を全て取り上げ、おし葉標本と写真を用いて分かりやすく解説しました。同時に、全国でも有数の生産地である深谷のユリ栽培のようすや、近年分布を広げている外来のタカサゴユリ（台湾原産）についても紹介しています。この展示にあわせ、6月20日から7月12日までの土曜日と日曜日、各日先着50名様にユリ球根プレゼントを実施しました。



展示風景



プレゼントしたユリ球根

展示資料

おし葉標本：ヤマユリ、ミヤマスカシユリ、クルマユリ、コオニユリ、ホソバコオニユリ、オニユリ

写真：クルマユリ、コオニユリ、ホソバコオニユリ、森林公園のヤマユリ、石灰岩の岩壁に生えるミヤマスカシユリ、深谷のユリ栽培、自生地のタカサゴユリ

協力

蛭川 登氏（取材協力・ユリ球根提供）

（財）公園緑地管理財団 武蔵管理センター

（森林公園ヤマユリ群生地写真提供）

展示した写真と解説の一部をご紹介します。

○ ミヤマスカシユリ

Lilium maculatum var. *bukosanense*

石灰岩地の岩壁から垂れるように生育。武甲山で発見され、その後茨城でも生育が確認されました。学名に“*bukosanense*”とつけられています。花期は7月。県の「希少野生動植物の種の保護に関する条例」で保護が義務づけられています。国：絶滅危惧IB類、県：絶滅危惧IA類。



石灰岩の岩壁に生えるミヤマスカシユリ
1995.8.6. 平誠撮影、武甲山

○ 外来のユリ

夏、空き地や高速道路の斜面などに白いユリが群生していることがあります。これは台湾原産のタカサゴユリです。種子でよく増えるため近年急速に分布を広げているようです。南西諸島の海岸に自生するテッポウユリと交雑することが知られ、在来の動植物あるいは生態系に悪影響を及ぼす可能性があります。



自生地のタカサゴユリ
1985.7.31. 吉田考造撮影、合歓山（台湾）

（すだ だいき・学芸員）